

以下は、21019 年度に英語圏へ長期留学した学生による留学関連情報と最終報告書
 です。番号①-②:カリフォルニア大学リバーサイド校 ③-⑧:ヴィクトリア大学
 ⑨:ニューサウスウェールズ大学 ⑩:エディンバラ大学

①

留学先	アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話は どうしていたか	日本で使っていた端末をSIMフリーの状態にし、SIMカードも日本で準備した(KDDIのSIMカード)
現地での資金調達は どうしていたか	国際デビットカード(SBI)を作り、日本の親から適宜当該口座に入金してもらっていた。
現地で困ったので日本で 準備した方が良かったこと	実際に困った経験はないが、アメリカの飲み薬はサイズが大きく飲みにくいので、日本の飲み慣れた薬を持って行くと良いと思う。
留学を考えている後輩 へ伝えたいこと	<p>行く前のある程度の TOEIC のスコア(400 点程度)があると良いスタートダッシュを切れると思います。英語クラスのレベル分けをするためのテストが初回にあります。そのテストを受けて一度分けられたクラスに入ると、次に1つ上のレベルのクラスに上がるまでに3か月必要であること、上級クラスだけが取ることのできる選択制の授業があることなどから、最初のテストは非常に重要になってきます。特に留学の期間が半年の場合は、上のレベルのクラスにあがる機会が少ないため、事前の準備をしておくといいと思います。</p> <p>私自身、最初は友達が全くいない中で、授業についていけるか戸惑いましたが、完璧な英語ではなくても何が分からないかきちんと伝えることで乗り越えることができました。先生も他の留学生も授業に対してとても熱心で、真剣に話を聞いて意見をくれます。課題を一緒にやったり、伝統料理の作り方を教えてもらったり積極的に交流すると、更にコミュニケーション力の向上に繋がると思います。自分の過ごし方次第で、留学生活はかなり有意義に過ごせると思います。国、年齢、宗教の違う沢山の留学生と勉強したり交流したりできる環境が整っているとので、限られた期間のなかでいかにその機会を逃さず掴んでいくかが大切です。大学の近くに充実した設備が整ったジムがあるので、食べ過ぎたなと思った日や、リフレッシュしたいと思ったときは積極的に利用してみてください。</p>

留学最終報告書：半年間の留学生生活を振り返って

半年間のアメリカ留学を振り返ってみて、留学に行くと良かったと強く感じている。留學生活のなかで経験したことはどれも自分自身の成長に繋がる貴重なものばかりだったが、その経験をしながら特に自分が大きく成長したと感じたものが2つある。

1つ目は、語学力の向上である。留學生活を通して、英語を学ぶということは勿論、学んだ英語をすぐに使える環境があったことで、確実に自分の知識として定着させることができたと感じる。授業の中でプレゼンテーションやグループワークをすることが多く、自分の意見を積極的に発信したり、他国の留學生や先生の意見を聞いて刺激を受けたりする機会を持てたことが非常に良かったと思う。意識していなくても自然とコミュニケーション力が高まっていくのを感じた。また、ビジネスの授業の中では、専門的な用語について知識を深める機会があり、自分の持つ語学力を最大限に発揮しながら学ぶ機会を持つことができた。ビジネス用語を学んだり、海外の企業の面接に受け答えする際に使えるフレーズを学んだりできたことは非常に貴重な機会であったし、実践的な英語を身につけることができたのは、今後の自分にとって非常に大きな武器になると感じた。その他にも、時事問題を扱う授業を取っていた。授業の課題では、先生や友人、ホームステイ先の人に決まったトピックに対して取材をし、効果音やナレーションをつけたものを動画にしたりラジオにしたりして提出するものがあった。抑揚やスピード、実際に使用する情報は何にするかなどを、実際のニュースやラジオ番組を参考にしながら作成していた。日本のニュースやラジオと比べ、情報を伝える上で特にイントネーションやトーンの違いに気をつけて発信することが大切であることを感じた。今までは、どんな内容を話しているか聞き取ることがメインだったが、新たな視点から海外のメディアを捉える機会になった。

2つ目は、自分の意見に自信を持って発言できるようになったことである。留學生活を始める前は、自分の意見が果たして相手にきちんと伝わるのか、的外れな意見を言ってしまうのか、と不安だった。しかし留學生活を終える頃には、自分に自信がつき、頭に浮かんだ考えをきちんと言葉にして伝えられるようになった。私がこのように変わることができたのは、ホームステイ先のホストマザーや、クラスの先生方のおかげである。ホームステイ先でも学校でも、その日にあった出来事や、日本とアメリカの文化の相違点、学校の課題の疑問点など、様々なことに対する意見を常に共有していた。その中で、彼らは常に「あなたはどう思うの？」と私に疑問を投げかけてくれたり、答えたことに対して「もっと自信を持っていいよ。」と勇気づけてくれたりした。相手にきちんと伝わるように説明するにはどのように言えばいいか、どんな情報を提示した上で話せばいいかなどを頭で考え整理した上で会話する癖が自然についた。その結果、授業内容の理解や日常の会話もスムーズになり、積極的に自分の意見を発言できるようになった。

正直留学前は、6ヶ月という期間は長いと感じたが、今振り返ってみるとあっという間だった。全てが初めての環境のなかで直面した様々な壁に、勇気を出して立ち向かってみると、その壁が案外高いものではなかったと感じることが沢山あり、最初から無理だと決めつけず、自分を信じて挑み続けることの大切さを感じた。また、留学中に会った様々な国の学生と交流する中で、改

めて日本という国を見つめることができたように感じる。様々な違いに戸惑うこともあったが、違いを良さとして認め尊重することが大切であると感じた。留学で得たことを今後も活かしながら、多くのことに挑戦し、自己成長を続けていきたいと思う。

留学先	アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本でSIMカードを買って、現地で自分のスマホにSIMカードを入れた。インターネット使い放題で月額7000円程度。
現地での資金調達は どうしていたか	マネパカードというものを私は作りました。現地の銀行から現金を引き出せることができたり、そのままカードで支払ったりしていました。後は現地の銀行口座を作りました。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	私はよく体調を悪くすることや、ケガをすることが多いのである程度日本の薬は持って行っていたのですが、足りなくなったので多めに持って行った方が良かったと思いました。咳止めなどの薬があまり効かなかったです。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	語学学校でも周りの人達は凄く英語ができる人が多かったし、特に授業の説明などはあまりなく学校が始まるとすぐ授業になるので、読み書きよりは会話がある程度できるようにしておいた方が、授業にもついていきやすくわからないことがあった時に先生にも質問しやすくなると思います。あとは、日本のことをホームステイ先や他の国の人たちに聞かれることが多いので自分が思う日本について英語でいえるようにしておくとお話が広がって会話もしやすいと思います。

留学最終報告書

私はアメリカに1年留学する予定だったが、コロナで半年になってしまった。しかしながら、その中でも学んだことはたくさんあった。まず私が1番成長したと感じたところは、人とのコミュニケーション力や人前で話す力だ。母国語でのコミュニケーションならまだ知っている言葉だしそこまで力が無くてもある程度は話すことができる。しかしネイティブじゃない言葉でコミュニケーションをとるということは思っていた以上に難しかった。私は英語をやっていたので大丈夫だろうと心配なく行ったのだが、いざ誰かに話しかけようと思うとなんて言ったらいいのかわからないし、自分が言いたいこともうまく言えないし、話しかけることができなかった。ずっと相手からを待っている状態だった。しかし最初のオリエンテーションで出会った中国人の友達がいたのだが、みんな私より話せていて聞き取ったりするのが大変だった。けれども私の英語を聞いてくれようとしてくれたり、「僕たちの英語も完璧じゃないから大丈夫だよ」と言ってくれたり私が英語を間違ってもいいから話してみようと思ったきっかけとなった。その他には、ホームステイ先でファザーやマザーと話をしたりすることが私のコミュニケーション力への自信となった。二人ともはっきりとしているタイプだったので私が曖昧な反応をしていると、「どっちなの？」といったように意見を求めてきていたので、そういったしっかりと話をする機会があったので、自分の意思を相手に伝えるように言うということをホームステイ先で鍛えることができた。そして私はプレゼンが大の苦手だった。日本語でやるのでも精いっぱいだったのに英語で毎週のようにプレゼンをやらなければならないはとても苦痛だった。クラス内なのでそこまで大人数の前ではなかったのだが、英語となると伝え方や間の取り方、繋ぎ方など工夫する点がたくさんあった。私は緊張しているのがばれないように、パワポに目をいくようにしたり、読み方を工夫したり今までなら考えることのなかったことを考えて自分なりのプレゼンの仕方を習得できた。嫌なことでも必ず毎週やってくることだったので逆にそれに対してどう対応するかを見直す良い機会となった。私の先生がたまたまプレゼンを多くやる先生だったのでそれが私にとっては成長に繋がった。

二つ目に私が変わったと思うことは、考え方や価値観だ。これも良い意味でアメリカに行ってから私の中で変わったことだ。アメリカと日本では大きく文化が違う、例えば、スキンシップが多い・はっきりと相手に物事を言う・誰にでも話しかけたりするなど日本では起こらないようなことがよくあった。私のホームステイ先はアメリカ人の家庭だったので、特に二つ目のはっきりと物事を言うということに関してはよく感じていた。ほかにも、街中でエレベーターに乗っていたら話しかけられたり、お店の店員さんに話しかけられたり(ここでいうお店の人とは服屋以外に普通のスーパーや飲食店もということだ)したことがたくさんあった。後、身近なことでいうとお店で自分が通りたいところに人がいた場合日本ではあまり声をかけてわざわざ通るということをしない。けれどもアメリカではすみませんと必ず言っていたのだ。こういうことからきちんとして口で伝えるというのが当たり前なのであった。ここからどう考え方が変わったかという、日本はこうしたら周りから変に思われるとかこれはしては駄目だという固定観念が多い。しかしアメリカでは自由なことが多く、自由だからこそ周りの目を気にせず話しかけたりしている。このとても自由な空間で過ごしていて私自身も逆に、日本はなんであんなに周りを気にしたり、偏見があるのだろうと考えるようになった。別に人が何を着ていたって自由だしそれを他人が何をしようと自分に迷惑がかかっていなければ

良いのではないかと考えるようになった。アメリカに行ってから広い心を持てるようになった。こうやって考え方が変わったことで将来の目標なども視野を広く考えられるようになったのだ。偏見を持たずに物事を見てみるということは新たな発見にもつながる凄く良い機会だ。

アメリカ生活では英語力だけでなく様々なことを身につけることができ沢山の経験ができた。海外生活は新しい自分を見つけるチャンスだし周りを考えることもできる。自分次第で無限に色々なことが発見できると私は考えている。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本で携帯を契約したままカナダで1年間過ごしました。現地では常時 Airplane Mode に設定して、Wi-Fi のある場所ではか携帯は使えない状態にしていました。大学敷地内、街中などよく行く場所には必ず Wi-Fi があるのでそれほど困ることはなかったです。ですが、旅行に行く際には日本の携帯会社 (au) の世界データ定額を短期で申し込んで使用していました。
現地での資金調達は どうしていたか	国際デビットカード (楽天銀行・ソニー銀行) を作り、日本在住の両親から必要な時に随時入金をしてもらっていました。何かあった時のために現金も常備しておいたほうがいいと思います。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	<p>① 日本食：カナダにも日本食スーパーはあるのですがとにかく値段が高いです。持っていけるだけ持っていか、後日両親から仕送りしてもらうことをお勧めします。</p> <p>② 洗濯ネット：海外の洗濯機はとにかく威力がすごいので、洗濯ネットがないと服がすぐボロボロになります。日本製ネットだととても安心です。</p> <p>③ ヒートテック：ヴィクトリア大学は冬でも冷房が入っている場合が多いのでとても寒いです。ヒートテックは1番役立ちました。</p>
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で英語力がなくても問題はないですが、行くと決めたらできるだけ英語の勉強をしておくことをおすすめします。(現地に行ってからスタートダッシュ本当に大事です！) ・完全に私の主観ですが、<u>1年間滞在</u>したほうが英語力の伸びも大きいし、交友関係、行動範囲もだいぶ変わっていきます。時間の流れが普段の倍早いと思ったほうがいいです。

留学最終報告書

1年間の留学を終えて、いざ振り返ろうとすると何から振り返ったらよいのかとても悩ましいものです。この365日本当にたくさんの経験をしました。人生最高の経験も人生最悪の経験も今となってはすべてが充実したかけがえのないものだったと思います。2019年4月、カナダに渡った当初、私の英語力は生まれたての赤ちゃんでした。何を言っているのかわからなくても、みんなに合わせて笑うことが正解だと思って生活していました。そして、それから4か月後の8月あたりにようやくコミュニケーションがうまく取れるようになったことを覚えています。そこに至るまでの経過には、現地の友達とホストファミリーの支えがあってこそでした。私の留学生活がこんなにも充実感に満ちている理由は、間違いなくホストファミリーの存在です。毎晩何時間もホストマザーとたわいのない話をして、休日は朝からハイキングや海に連れて行ってもらいました。カナダという土地は本当に広大で美しいです。そして歴史も深く、人々はとっても優しい、私の大好きな場所です。こんなにもカナダのすばらしさを学ぶことができたのは、素敵なホストファミリーに出会うことができたからだと思います。本当に自分の対人運に感謝です。対人運と言えば、私はボランティア活動を通して素敵な人々とたくさん出会いました。英語力が徐々に身につけてきた10月頃に、ボランティア活動の参加を活発に行い始めました。例えば、10月はBallet Victoriaのバックコーラスとして役800人の前でパフォーマンスに参加させていただきました。コーラスがたったの2人という状況で、日本人の私の意欲をかって、参加させていただいたことにとても感謝しています。私はあがり症だったのでとても不安でしたが、周りの皆さんのおかげで、無事緊張することもなく楽しくステージを終えることができました。この経験から、あがり症克服という大きな自身と、私の行動力を認めてくれる人がいるのだという大きな責任感を得ることができました。12月には3週間のMonthly programをキャンセルしてボランティアに参加し、そこでまた社会経験を積みさせていただきました。12月までは数カ月に一回アメリカやバンクーバーへ旅行に行く余裕もあり、勉強友達ボランティア活動に旅行まですべて両立できていました。ですが1月からは、本当に忙しい日々が続きました。クラスのレベルが上がっていき課題が増えていく一方で、ボランティア活動で広げた人脈を使い、ほぼ毎日別のボランティア活動に参加していました。この時の経験が生きて、英語力がさらに向上していたのだと思います。語学の向上は、とにかく使用する(話す)ことで劇的に伸びます。カナダは特に、様々な国の人たちが生活しているので、学校というコミュニティーの外に出て積極的に経験することで、スパニッシュイングリッシュやイギリス英語などに耳が慣れ自信がついてきます。留学に来たからといって、大学の中で友達を作り、限られた中で英語を学ぼうと思うと逆に苦戦することを心の底から実感しました。留学生活後半は、自らコミュニティーを広げ積極的に活動することで英語が上達し、各国の文化など様々なことに対する理解も深まりました。本当に充実した留学生活に見えますが、もちろん苦悩もありました。正直に話すと、2月から3月にかけて約1か月間精神的に疲れ、自暴自棄になり、家の外に出ることをやめました。登校もできませんでした。カウンセラーさんにお世話になり、友達にもたくさん迷惑を掛けました。精神的疲れは本当に予期せずによってくるのだとつくづく感じます。そのとき一番支えてくれたのは、やはりホストマザーの存在でした。本当に感謝しています。その際、ヴィクトリア大学の先生方による手厚いサポートにも本当に感謝しています。こうして振り返ることで、楽しかったこともつら

かったことも、全てを含めて私の大切な留学生活だったことをしみじみと感じています。初めに言ったように、留学は楽しいことばかりではないです。自分は頑張っているつもりでも英語力が伸びず精神的に苦しいです。大学の授業に関しても、優しい先生・厳しい先生どちらもいて、助けてもらえない時もたくさんあります。異国の文化を理解することも、友達を作ることも予想以上に大変です。ですが、地道に努力していれば必ず誰かは見ていて、自分の身になって返ってきます。そして常に、他人へのリスペクトと、両親への感謝を忘れないでください。それさえ心の中にあれば、大抵のことはうまくいきます。(頑張りすぎは禁物。)様々な国の友人たちと1日中遊び明かしたことも、ホストマザーとのゆっくりとした休日も、忙しい中出かけた旅行(アメリカ4回、カナダ国内4回)も、とってもいい思い出です。こんな恵まれた環境だからこそ、努力し続けることができ、TOEICのスコアも出発前から約450点伸ばすことができました。

今はとにかく、自分を支えてくれた全ての人に恩返しができるように、さらに英語力を上げ、またカナダに帰りたいと思っています。今留学を考えている皆さんも、私と同じく充実した日々を送れることを願っています。何か質問があればいつでも聞いてくださいね。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	SIMロックを解除して、カナダではWi-Fiがあるところだけで使用していた。
現地での資金調達は どうしていたか	郵便局から楽天銀行に入金して、それを携帯のアプリから親が自分の楽天銀行口座に送金してもらっていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	特に困ったものはなかったが、あるとすれば延長コードやハンガー、モバイルバッテリーは持参した方がいいと思う。日本食はレストランで食べる事ができるため、そこまで日本食が恋しくならなかったが、たまに親から仕送りをしてもらっていた。”Fujiya”という日本食が売っているお店があるため購入は可能だが値段は少々高かった。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	もし海外に留学へ行きたいと思っている学生がいたら英検準二級、少なくともTOEIC350以上を持っていたほうが良いと思います。まったく勉強しないで行くと、実際に現地で生活するのが想像よりもはるかに大変で焦りや不安、ストレスを抱えてしまうと思います。ある程度理解し少しでも言いたいことが言えるように、英単語やフレーズを覚えてあらかじめ勉強することをオススメします。今からでも決して遅くはないし勉強することで自分のレベルを少しでも上げられるメリットがあるのでぜひやってみてください。特に身に付きやすく覚えやすい勉強法として、Netflixで最初はサブタイトルをつけながら洋画を見て使えそうなフレーズを覚えたり、InstagramやYouTubeで海外に住んでいた人で単語の使い方や勉強法を挙げているものがあり、とても役に立つものばかりです。それを勉強しておけば海外に留学へ行った際に、環境に慣れるのが早くなり、現地の友達がたくさんできたり、少しでも自信をもって英会話をしながら日常生活を送れると思います。

留学最終報告書

カナダから帰国して約一年が経過した。カナダで生活していた頃は、一日一日があっという間に過ぎていたが今はコロナのため stay home しなければならない日々が続く、さらには就活にも大きな影響がでてなかなか思うように行動が出来ない。帰国してから度々カナダにいた頃を思い出し、友達やホストファミリーが恋しくなる。カナダのビクトリア大学に一年間留学したことは私の人生において挑戦であった。毎日が新鮮で、日本ではない新たな国での生活や文化の違いを実際に経験できて本当に良かったと思う。

一年間の留学生生活を振り返ってみると、最初の頃は本当に英語が話せなくて毎日悩んで「もっと日本にいた時に勉強しておけば良かった、。」と後悔していた。誰と過ごすにしても、初めは会話についていくのが必死でまともに会話ができず、何を言おうか頭の中で考えている間に自分の意見が言えずに終わってしまうことがよくあった。それを変えてくれたのはビクトリア大学だった。様々な国からの留学生を受け入れており、授業では交流が多く発言することを中心においているため自分自身の成長速度が急激に早くなっていった。学校の友達を通して現地の友達との繋がりができコミュニティを広げるきっかけとなった。この大学は、最初のテストで自分のレベルやクラスがわかり、次にクラスへ進むには合格点がある。そういったシステムで自分のレベルが確認できるため、自分の限界に挑戦できた。選択授業では、アート、文法、コミュニケーション、音楽などが選べる。もしできるのであれば、IELTS を選択するのが良いと思う。私はこの授業を選択していたが、移住を希望する人の英語力を測定するもので、もっとも権威があり世界的に認知されている試験である。特にスピーキングテストが難しいが、勉強して損はないものだと思う。もし、海外に移住したい、または働きたいと思っていたらこの試験を優先して受けるべきだと思う。

私にとって特に刺激を与えてくれたり、成長につながったものは三つある。一つ目は、同じ大学からの留学生である。彼らがいたことによって、ライバル心や負けたくないという気持ちが成長に繋がったのだと感じている。お互いに日常会話ができるまであまり会わないようにしたり、会う時には日本語はもちろん使わないなどの工夫をした。自分に影響を与えてくれる存在の大切さを感じられた瞬間だった。

二つ目は、ホストファミリーの存在だ。まるで本当の家族のように接してくれた。一番一緒にいる時間が長かったからこそわかる彼らの温かさから、安心して生活ができた。課題を教えてくれたり、間違った言葉の使い方は指摘してくれた。

三つめは、やはり現地の友達である。現地の人とはカフェに行き勉強したり、一緒にパーティーに参加した。一緒に過ごしてわかることはスラングを使うことが多いこと、自分の意見はしっかり相手に伝えることだ。ファミリーや留学生の英語に慣れることはもちろんとても大事なことだが、話すスピードや発音が全く違うためとてもいい勉強法だった。スラングを嫌というほど聞いて混乱したのを覚えている。その時はついていくのに精一杯だったが、4ヶ月ほど過ぎたあたりから少しずつ慣れてきて会話の中でどの場面でどのフレーズを使うのが適切なのか、こう言ったら相手に失礼だと理解しながら会話できる様になった。自分は認められている、失敗してもいいことだと彼らから学ぶことができた。

日本にいた時と比較してみると、消極的で内気だった自分を少しでも変えられたと思う。挑戦することで自信につながり、自分はこれができるのだと胸を張って言えるようにたくましく成長できた。失敗を恐れて挑戦することから逃げるのではなく、挑戦するために失敗することはとても素晴らしいことだと自分の見方を変えられた。もしまた留学に行くかと聞かれたら即答ではいと言えるくらいカナダで私は、多くのことをこの目で見て学ぶことができた。この経験は私の人生を変えた一生に一度の出来事だと思う。留学を許可してくれてサポートしてくれた親にとっても感謝している。私は、将来海外で働くという夢ができた。そしてここからさらに自分の英語力を上げるために、英検や TOEIC、IELT など将来に役立つ資格取得を目指し、この経験を生かしていきたい。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	1年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本からSIMフリー端末を用意して現地でSIMカードを購入 →金額など詳細：日本を出国する数週間前にSIMフリー端末を購入したため、すぐに現地でSIMカードを買い替えできなかったため、最初の約100日間はホームステイ先や学校、商業施設のWi-Fiを使用していた。その後、月4GBで約4千円のSIMカードを契約。
現地での資金調達は どうしていたか	国際デビットカード（イオン銀行を作り、日本の親から適宜当該口座にお金を入れてもらっていた。）
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	ニキビ用の薬を多めに持っていけばよかった。環境の変化やホームステイ先での食事によってニキビが顔に出やすかったため現地で薬を調達したが、高価な物や肌に合わないものが多かった。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学をする目的をはっきりと定めて行き、その目的を見失わないよう努力することが大切だと思います。半年あるいは1年という長期間のため、学校やホームステイ先での生活で大変な思いをするときが必ずやってくると思います。そんなとき明確に定めたつもりの目的でも諦めそうになってしまうかもしれませんが、その目的を常に思い出し留学先での貴重な時間を無駄にしないようコツコツ努力することで前に進むことができると思います。

留学最終報告書：1年間のカナダ留学を振り返って

1年間のカナダ留学を学校についてとホームステイについて振り返ろうと思う。まず英語力ではリスニングとスピーキングが最も伸びた。語学学校の先生はもちろん英語のみで授業をするため、耳が自然と慣れていくことができた。留学当初の初級クラスでは先生方もゆっくり説明してくれていたが、それでもしばしば聞きとれないことも多かった。クラスのレベルが上がるにつれ、話される英語のスピードも上がっていったがそれも聞き取れていたのでもリスニング力が上がったことを実感できた。スピーキング上達の最大の理由は留学スタート後すぐに、私よりも英語が得意な韓国人の友達を作れたことだ。初日のオリエンテーションで私は少し緊張していたが声を掛け仲良くなり、その後一緒に出掛けることや勉強することも多かった。英語で毎日会話ができて、私が文法や単語を間違えて使ったときにも注意してくれた。その友達に会えたことで英会話に対する恥じらいが無くなり自信もついたのでその友達には本当に感謝にしている。ELPI の490Academic、570Academic^{※1}のクラスは主にエッセイライティングとリーディングに特化していた。ライティングについては複雑な文法かつ読みやすい構成を駆使する大切さや、身につけるべき単語の幅を広げることで、私が読み手に何を伝えたいのかを鮮明に表現する方法を学ぶことができた。そのため文法力、語彙力は向上した。しかし、私にまだ足りないのは、上手なエッセイを速く書く力だ。普段の宿題では、アイデアを決めるところからエッセイを完成させるまでに与えられる期間は1週間あり、内容をじっくり練れるのだが、中間、最終テストでは2時間のみ与えられたときは、より速く確実に書く技術が必要だと痛感した。また将来英語で長い文章を書く機会があったときのためにも、速く正確に書く力が必要だと思う。新型コロナウイルスの影響で予定より2週間ほど早く帰国した。現地で受けられなかった2週間分の授業を、帰国後、当語学センターの無料のオンライン授業を受講し補填した。そこでもエッセイライティングの課題が続いていたので、ライティングのスピードを重視し取り組んだ。リーディングについては授業内、宿題共に多くの英語の新聞記事や雑誌、本など読み、読めば読むほど、速読が上達していった。しかしまだ、英語の論文などは何度読んでも難しく、分からない英単語を調べることで時間がかかりすぎてしまう。様々なタイプの英文の記事や本を読む習慣をコツコツ続けて行きたい。

私は1年間ホームステイをしたが、一箇所目に約半年滞在し、その後ホームステイ先を変更した。引っ越した理由は、ホストマザーとその子どもの2人が、ホストファザーとあまり仲が良くなかったことと、ホストファザーに、私が震災で津波の被害にあったことをからかうような発言をされたことであった。しかし、その引っ越しを振り返ると少しだけ後悔が残っている。その一箇所目のステイ先では夜10時過ぎまで会話の練習をするために起きていてくれたり、宿題の分からないところを質問したとき私が理解できるまで説明してくれたりした。夕食時もスピーキング上達のために英語で質問をする機会を作ってくれた。しかし、2つ目のステイ先では夕食は約15分間で、みんなが食べ終わると他のホストマザーとルームメイトたちも自分の部屋へすぐに行ってしまうのであまりホストマザーと会話するチャンスがなく、私も大体の時間は自分の部屋に籠ってしまっていた。そのためそのホストファミリーとあまり仲良くなならないまま帰国の日が来てしまったという状態だった。これらの経験から、自分に100%合うホームステイを見つけることは難しいが、環境に慣れるための努力が私には欠けていたと大変反省している。反省すると同時に、自分の性格面での成長もあ

った。ホームステイと通して自分の意思をはっきり言葉で伝えられるようになった。ホストファミリーと一緒に快適に暮らすには、自分がどうしたいかを伝えなければならない。引っ越しを決めたとき、半年もお世話になったステイ先を離れることは失礼だと思ったが、そのとき引っ越しをしたい意思を恐れず伝えた。はっきり言葉にすることに少し消極的だった私だったが、ホストファミリーも引っ越しを認めてくれ、我慢せずきちんと相手に伝える大切さを学んだ。

カナダだけではなく韓国や中国、ペルーやブラジルからきた友達も作ることができ、さまざまな文化に触れることができた。英語だけではなく他の言語をその友達から教えてもらう事もあった。英語学習に対するモチベーションが高い人や将来の夢をしっかりとった人たちに囲まれて、私の1年間の支えになってくれた友達もいた。1年間の留学の機会をもらえたことに大変感謝している。やはりカナダで学んだことを最大限生かせるような職に就き、吸収してきたことを無駄にしないよう、今後の生活を送りたい。

※1 本学生が ELPI という Intensive English のプログラムを受講時、レベルが下から 200, 330, 410, 490, 570, UAP (大学進学コース) と分かれていた。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	フリーWi-Fiだけ
現地での資金調達は どうしていたか	国際デビットカード（ソニー銀行）を作り、日本から親にお金を送ってもらっていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	なし
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学に行く前に単語を一個でも多く覚えなさいと母に言われましたが、私はそこまで勉強することなく留学へ行きました。そしたら、私のボキャブラリーではホストファミリーとコミュニケーションをとるのがかなり難しく、私が伝えたいこと、相手に言われてることがわかりませんでした。留学に行くということは、英語を覚えるために行くのではなく、自分がしてきた、覚えてきた英語を試す場という意識でいったほうが良いと思います。私は、来る前よりは英語が分かるようになりましたが、もっと単語を覚えていけば、最初からコミュニケーションが取れたのに、と後悔しています。文法も大事ですが、まずは単語の数を増やすことが大事だと私は思いました。

留学最終報告書：留学を振り返って

半年間、カナダのヴィクトリア大学に留学して成長したことが大きく分けて2つある。

1つ目は、英語力が伸びたことだ。特に私は、リスニングが一番伸びたと思う。まず、カナダの学校に行ったら、テストをして自分に合うレベルに分けられる。そして、そのクラスで一週間くらい授業をして生徒のレベルにあっているか先生が確認し、その後、自分のクラスが最終決定する。私は、はじめにレベル分けされたクラスについていくのがやっとだった。授業中も先生の言っている内容がわからないことが多く、自分だけ取り残されている感じがあった。そして、私はクラス最終決定の段階で、レベルが一つ下がった。その時は自分だけ下のレベルに行くことが恥ずかしかったし、嫌だった。でも、下のレベルで授業を受けたとき、わたしはここが自分にちょうどいいレベルだと思った。先生の言っていることもわかるし、しっかり授業についていけた。授業内容は、今まで習ったことの復習のような感じで、これで英語が上達するのか疑問だったが、いままであまいに覚えていたところを改めて、しっかり覚えることができた。そして、そのクラスを卒業し、一つ上にレベルが上がることができた。日本に来たばかりの時は全く分からなかった内容が、普通に理解できるようになっていたのだ。今までしてきたことは簡単なように感じていたけど、それがすべて自分のものになると、ここまで成長することができるのかと驚いた。私がカナダでしてきたことは次のようなことだ。授業中は、先生の話をよく聞くこと。そして分からないところがあればすぐ先生に質問したり、自分で調べたり、わからなくても積極的に発言した。授業終わりには、友達とその日習った単語や文法を実際に使って練習した。頭で覚えてだけでは忘れてしまうことを、何度も声に出して練習することで授業内容をしっかり自分のものにした。休日などは、学校のアクティビティーに参加したり、ボランティアの人と話したり、友人といろんなところに行って、英語を話す時間を作った。ホームステイ先で、ホストファミリーと会話するときは、相槌だけではなく自分から質問もするようにした。ホストファミリーの人は、今までいろんな人を受け入れてきたわけなので、間違うのが恥ずかしいと思わなくていい、と私は思う。

2つ目は、積極的になれたことだ。最初、私はほぼホストファミリーとコミュニケーションをとることができなかった。間違うのが恥ずかしいし、言われていることが理解できる気がしなかったからだ。学校では日本人の友達と一緒に過ごした。周りの日本人の友達は自分よりできる人ばかりだったし、私のことを馬鹿にしてくる人もいて、自分の気持ちも下がり、すべてにおいて消極的になっていた。そんなある日、私は中国人の女の子と出会った。その子は私の英語を頑張って理解してくれようとして、わたしがわからない単語があれば、分かりやすく説明してくれた。その時、自分なりに頑張っていれば、一緒に頑張ってくれる仲間に会えること、会話のとき言いたいことを完璧な文法で伝える必要はないこと、自分が持っているボキャブラリーの中から伝える努力をすれば、相手もそれを理解しようとしてくれること、をその女の子から学んだ。それに気づいた時から、わたしはいろんなことに積極的になれた。自分から話しかけたり、積極的に学校のアクティビティーに参加したり、活動の幅を広げた。そのことで、英語を話す機会も増えたとし、自分に自信がついた。留学で学んだ様々な経験や力をこれからの生活で生かせるように頑張っていきたい。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	私はSIMを購入せず、Wi-Fiのみで生活していました。家や学校ではもちろん、カフェやショッピングセンターなどWi-Fiがあるところが多く特に困りませんでした。道に迷ったなど緊急事態の時は、とりあえずWi-Fiを探し求めて歩き回りましたが意外とすぐに銀行などのWi-Fiなどと接続できます。しかし、Wi-Fiがなくても携帯が使える方が確実に安心です。カナダでは8G1ヶ月50ドルほどで購入できるので日本より半額くらい安いです。出国前はWi-Fiで生活すると決めていたのでカナダのSIMカードについて全く調べていませんでした。現地に着いてルームメイトからSIMのことを教えてもらい、購入するかどうか迷いましたが…。少しでも節約したくて結局SIMは買わずに生活しました。
現地での資金調達は どうしていたか	私はMoney T Globalのアプラスカードを利用していました。出国前に自分の振込専用口座に大きめの額を振り込んでおき、ホームステイ代として現金が必要な時に銀行のATMでおろしていました。UVICにもATMはあるのですが手数料がとても高いので銀行のATMの利用をオススメします。またこのカードはデビットカードとしてお買い物でも利用できるのもとても便利です。クレジットカードは使った金額が反映されるまで時間がかかりますが、このカードは使った瞬間に反映されて、残高がスマホからすぐに確認できます。現地に到着して1～2ヶ月はホームステイ代をおろすときにしか使っていなかったのですが、クレジットカードだと利用明細がくるまで最終的な請求金額がわからなかったり、使いすぎていたりしてしまったりしたので、途中からアプラスカードのみの利用に切り替えました。お金が足りなくなった場合は、日本から親に私の振込専用口座への入金をお願いしていました。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	私は生活用品一式をカナダに持って行ったので、特にこれと言って困ったことはありませんでした。例えば、シャンプー リンス 洗顔料 スキンケア用品 歯磨き粉 歯ブラシ 生理用品などは持って行きました。髪の毛がパサパサになるのは嫌だったので日本製のシャンプーを持ってきましたが、日本製の

	<p>シャンプーは入手しようとしたらウォールマートなどでも高額ではありますが入手できます。中でも持って行って良かったと思うのは歯ブラシと歯磨き粉です。もちろん現地で入手できる物ですが、海外の歯ブラシはヘッドの部分が大きいものしか売ってなくて使いにくいです。また、海外製の歯磨き粉の味がとにかく苦手なので持って行きました。あとは洗濯ネットを大量に持って行くことをオススメします。服のダメージを抑えることもできるし、ホストファミリーに触られても中身が見えにくいので安心です。</p>
<p>留学を考えている後輩へ伝えたいこと</p>	<p>初めから高いレベルのクラスに身を置くために、できるだけ自分の英語スキルを上げておきましょう！「自分の英語に自信ないしはじめは低いレベルからのスタートがいい」と思うかもしれませんが、低いレベルにいたら、できる友達も自分と同じレベルです。自分が高いレベルにいれば英語スキルの高いクラスメイトと勉強でき、英語ができる人と仲良くなれる可能性が高くなります。一緒に時間を過ごす友達はとても大事です！日本人の友達も他の国の友達も！意識の高い人と一緒にいたら自分の意識も高くなるし、頑張ろうって気持ちが続きます。せっかく高いお金を払って留学するのだから時間を無駄にはできません。スタートは肝心です。</p> <p>高いレベルに配属されるためには、ある程度のスピーキング力も必要ですが、Writing や文法など日本人が比較的強い分野をとにかく磨くといいと思います。有意義な留学生活を送るためには良いスタートダッシュをきめることが大切だと思います。</p>

留学最終報告書

私は半年間の留学生活で語学力はもちろん、留学しなければ経験できないようなことを沢山経験することができました。語学力の面では、カナダに行ったばかりの頃はホストファミリーと意思疎通がうまくできなかつたこと、お店に入って自分が欲しいものを注文するのも緊張していたことを今でもよく覚えています。半年という他の人よりも短い期間の留学生活でしたが、私はヴィクトリアで得た英語力、経験共に満足しています。今回の留学報告書では、留学中に気がつけたこと、留学前にやっておけばよかったと後悔したこと、留学を通して変わった考え方について述べたいと思います。

まず、留学中に気がつけたことについてです。留学生活で一番日本人との付き合い方に気がつけました。留学前私は誰もが英語上達を目的として、勉強に必死人ばかりだと思い込んでいましたが、実際は違いました。ヴィクトリアで出会った半分以上の日本人は、英語上達を目的としているものの日常生活を日本人とともにし、英語を使う機会はクラスでだけという人もざらにいました。言い方は悪いかもかもしれませんが、付き合う友達は選びました。同時に日本人の友達から学ぶこともとても多かったです。私は1回目・2回目のセミスターともに仲の良かった日本人が1人ずつおり、彼女たちから学ぶことがとても多かったです。例えば、彼女たちが使っている英語から使い方や単語を学ぶことができ、どうしても理解できなかつたら日本語で聞くこともでき、自分にとってたくさんの利益がありました。さらに彼女たちはラテン系の友達がたくさんいたので、私の友達も自動的に増えました。私の経験を通して、日本人と一切付き合わないというのは違いますが、付き合う日本人は考えるべきだと思いました。

次に留学前にやっておけば良かったと後悔したことについてです。私はもっと中学英語の復習をすれば良かったと後悔しました。私は最初に300のクラスに配属され410のレベルまででしたが490^{*1}までいきかけたというのが正直なところです。また、カナダについてもっと調べてから行くべきでした。カナダの政治、カナダ出身の有名人、カナダの歴史などです。そう思った理由は家庭での会話が政治関係のことについての話題が多かったからです。日本語である程度知っていて、それ関係の単語も少し知っていれば、ホストファミリーも会話して楽しいだろうし、自分の勉強にもつながると思います。

次に留学を通して変わった考え方についてです。まず、この留学は環境問題に目を向けるきっかけになりました。カナダに来て2~3週間程経った時に climate change demo がありました。そのデモには子供から大人まで参加していて、参加している全員が自らの意思で参加しているように見えたのが印象的でした。自分より小さな子供達が環境問題に真剣に目を向けている目の当たりにしてとても恥ずかしい気持ちになりました。カナダの子供達は政治や世界問題にもとても興味があります。ディナーの際、選挙が近かった時にはカナダの政党について討論、2月辺りからはコロナウイルスの話をしていました。日本はどのような対策しているの？と聞かれたり、オーストラリアの政策はこうらしいよと教えてくれたり、カナダの政策に批判したりと家族の会話の内容にはじめは驚きましたが、私もホストファミリーに自分の意見を言えるようになりたいと、色んなことを知る努力をしました。これは日本でも続けたい日課です。

最後になりますが、私が日本に帰ってきてすぐに書いた留学報告書には今年度中に

TOEIC600 点取得が目標だと書いていました。4月5月の時点で TOEIC を受験する予定でしたがコロナの影響で中止が続き、やっと9月に受けることができました。結果は目標を 100 点上回る 700 点取得できました。とても嬉しかったです。現在は留学中よりも英語を使う機会は激減していますが、帰国した今でもたまにインターナショナルの友達と電話したり、チャットしたりしています。

コロナウィルスの影響で 2 週間ほど帰国が早くなってしまいましたが、とても充実した留学生活でした。留学で培った経験をこれからの人生で生かしていけたら良いなと思っています。

※1 本学生がプログラムを受講時、300=Lower Intermediate, 410=Intermediate, 490=Upper Intermediate のレベルに相当。

留学先	カナダ・ヴィクトリア大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	ホームステイや学校にフリーWi-Fiが有るためそれを使用していた。
現地での資金調達は どうしていたか	クレジットカードに、両親から当預金口座に入金して貰いました。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	コンタクトや薬などの生活必需品は海外に行った際、現地に滞在している期間分は持って行くと現地で体に合わないなどの恐れが無いので持って行ってよかったと思う。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学先の大学によって TOIEC、IELTS のスコアの基準値に達していないと留学できない可能性ある為、留学先を決める前にしっかりと自分でその大学について調べる必要があると思います。 ホームステイ先に支払う宿泊代等は行く前からどのように支払うのか、またその家のルールを前もって聞いておくと問題が生じにくくなると思います。

留学最終報告書

私は約 3 カ月間のビクトリア大学 English language centre での留学を終え、語学だけでなく他の文化も学ぶことができた。

最初にクラス分けがある、会話を重視したクラスと書く力を重視したクラスを選ぶことができた。私は、会話を重視したクラスを選んだ。実際、授業内では話し合いが多く行われプレゼンテーションも行った。

授業では、実際に学校から提供された資料を渡され読んでどのように思ったのか考えなければいけない課題がだされた。会話の中で他の国では四季がないことや一年中暑い国に暮らしている学生もいるため天気によって何か生活に困ることはあるかなどを話し合ったりした。他にも授業の一環で、ビクトリアに住んでいる現地の方にクラスメイトと聞き込みをしてビクトリアの歴史について聞いたりすることがあり、クラスメイトとも必然的に会話をする量が増えていった。以上から、他国の留学生と意見交換のために積極的に話し合うことで自国とは異なった意見を聞くことで、自分の意見を持つことができた。授業終わりには苦手な文法等がある場合、先生から授業以外に課題を受け取る事が出来る。また、現地のボランティアスタッフと会話できる部屋があるためビクトリアでの生活やカナダの歴史について聞くことができた。また、文法や発音の勉強を授業以外でもしたい人は毎週何回かで予約制のフリー授業を受けることができる。以上からビクトリア大学では語学を勉強するための環境がしっかりと取られているため積極的な行動が語学の習得の向上に繋がると考えた。

楽しみながら語学を学びたいと思う人にもビクトリア大学をお勧めする。理由は、毎週金曜日に English language centre のラウンジに学生やボランティアスタッフが集まり、毎回内容が異なるがビデオゲーム、カラオケ等をしながら他の国の学生と交流することができるからだ。また、一時間ほどでビクトリアからバンクーバーまでフェリーで行くことができるため週末に友達とバンクーバーに行きビクトリアと違った街の風景を見ることができる。ビクトリアにもショッピングセンターはあるがバンクーバーにしかないお店もある為、友達と計画を立ててバンクーバーを楽しむことができた。

ビクトリアは自然が多く町中に花が咲いており、大学から少し歩けば海があるととても穏やかな街だ。また、レンタカーでスキー場がある山に行くこともできた。私は、ビクトリアにあるワシントンというスキー場にいった。コロンビアの友達はスキーができなかったので滑り方を教えながら一緒に滑った。そういったことも相手に自ら話しかけたりすることで会話するということが増えていき英語を上達するうえで最も大切だということを学ぶことができた。また、パターン化された短いフレーズを理解することができおよそ 2 か月程度で相手との会話が長くなっていき、ホームステイ先の方にも褒めてもらうことが増えた。以上のことから、まずは話しかけてみるという積極的な行動を心がけることで充実した留学生活を送ることができた。

留学先	オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本からSIMフリー端末を用意して現地でSIMカードを購入 →詳細：日本で契約し、到着してからSIMカードを入れて使用していた。携帯は日本で使っていたものをそのまま使用。月10ギガ使用でき、日本のように上限超えたら低速になるのではなく、超えた分だけさらに支払わなければいけない。
現地での資金調達は どうしていたか	現地では銀行を作らず、手数料の少ないATMで引き出していた。キャッシュパスポートを契約し、現金がないときはカードを使用していた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	ホームステイ先や近くのスーパー、コンビニに傘があるものと思っていたら、家に傘はなく、大きな通りにあるコンビニやスーパーに行かないと傘が売ってなかった。さらにかなり高額だったので、持っていけばよかったと思った。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	留学行く前に、学校のネイティブの先生の授業を取ったり、話したりしておくことが大切だと思います。当たり前だが、日本語は通じないし、家でのルールや学校の授業は英語なので、スピード感に慣れるのに苦労した。リスニングの練習やネイティブ相手に間違った文法でも何か伝えようと話すことに慣れておくと良いと思います。

留学最終報告書: 半年間を振り返ってみて

半年間、UNSW Global で留学してみて、自分の中で一番成長したと思うことは、積極的になれたことだと思う。留学して最初の方は、やっている授業の内容は簡単なのに、すべて英語だし、スピード感について行くのに精一杯だった。さらに、日本の授業とは違うので、そこに慣れるのも大変だった。意見を言わなければいけないときは、英語が出てこず、苦しい思いをたくさんしたし、友達も最初はいなかったなので、なかなかわからないことをわからない、と助けを求めることができなかった。それでは自分のためにならないし、自分から積極的にかけて、助けを求めれば自分の英語力に向上にも繋がるし、友達も作れる、と思い、自分から積極的に話しかけたりした。そのおかげで、今でも連絡を取り合っている親友を作ることができたし、必然的に英語力も向上できたと思う。すべては自分の行動力と積極性だな、とその時思った。シドニーでは、「ミートアップ」という、様々な国籍の人が集まって英語で会話ができる会が毎週開かれており、そこに行って自分の英語力をあげることができた。

私は、半年間で1番上のクラスに行くことができた。これは、私が自ら自分の英語力を上げたい、と思いクラスを自分よりも上のクラスにあげてもらったことから始まる。それは自分にとってかなりの挑戦だったし、プレッシャーも大きかった。だが、同じクラスの人みんな優しく、楽しく授業を受けることができた。確かに最初は、授業の内容が格段に難しくなった。だが、授業についていける自分に自信がつき、積極的に授業中に発言したり、グループワークを回して行ったり、自信がついたと思う。1番上のクラスは本当に難しかったが、かなり私にとって充実したクラスだった。コロナの影響で、オンライン授業だったが、毎回みんなの顔が見れて、話せることが私の楽しみだった。

オーストラリアは多国籍文化なので、様々な国籍の人と授業を受けたり話したりしている上で、自分の考えや将来のこと、全てにおいて視野が広がったように思う。自分にはない考えを持っていたり、様々なバックグラウンドを持った人たちと出会えたことは私にとって考え方をガラッと変えてくれた素晴らしい経験だった。

留学生活は楽しいものばかりではなく、苦しいこともたくさんあったし、英語が下手だと言われたこともある。けどそれは逆に考えてみれば留学したばかりの頃だったらそれすら聞き取れてないだろうし、自分のリスニング力が上がったから聞き取れたことだな、とポジティブに考えることもできるようになった。知らない地で、誰も知っている人がいない中、留学に行った自分の行動力はこれからの生活に活かしていけると思う。これを機にたくさんの新しいことに興味を持って、持ち前の行動力で挑戦していきたい。

留学先	イギリス・エディンバラ大学
留学期間（半年/1年）	半年
留学開始時の学年	2年生
派遣先での授業	語学センターの授業
宿舎	ホームステイ
スマホ・携帯電話はどうしていたか	日本からSIMフリー端末を用意して現地でSIMカードを購入 →金額など詳細：日本で予めSIMロックを解除⇒SIMカード購入(たしか25ポンド/月)
現地での資金調達はどのようにしていたか	デビットカードを予め作り、親がその口座にお金を振り込んでくれていた。
現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと	特にない。大体现地で手に入ります。
留学を考えている後輩へ伝えたいこと	ハイレベルでなくともある程度の語学力は必要だと思います。あとは周りにあるチャンスを逃さないこと。大学のイベントだったりサークルだったり…常にアンテナを張って参加すれば友達が作れるし英語も上達するので充実した留学生活になると思います。

留学最終報告書

エディンバラ大学では様々なことを学ぶことが出来ました。まず1つ目は語学力です。リーディングのクラスではスキミングやスキヤニング、本文要約などを繰り返し行い、英文の内容を素早く読み取って頭で整理するといった授業を受けていました。リーディングがとても苦手な私でしたが、この授業を受けてから問題を解くのが楽になりました。他にもエッセイやプレゼンテーションの書き方、やり方、構成などを1から丁寧に学び、練習して評価してもらいました。最終プレゼンではクラスで一番良い評価をもらうことができ、達成感があったし、前よりも自信がつき、成長することが出来たと思います。また、クラスには中国人やアラビア人がいたので初めて日本人以外の英語を母語としない人の英語を聞きました。最初は聞き取りづらかったものの、自分もこう思われているのかなとか考えて発音に気を付けるようになったし、聞く努力をしました。普段あまりこういう体験はできないので新鮮でした。たまたま日本に帰ってから海外の方に道を聞かれて答えると、日本人なのに英語の癖がない、うまいと褒められたことがありこれも成果の一つなのではと思います。留学直後に受けたTOEICでは留学前と比べてあまり点数に変化がなかったものの、少し時間をあけてから受けたTOEICでは100点ほど点数が上がりました。

また、普段の生活や elective というクラスの中でスコットランドの文化を肌で感じる事ができました。クラスではスコットランドの名産品や観光地、方言、歴史などなど深く知ることができました。皆さんが気になるであろうイギリスの食事はまずい、というのは留学前にいろんな人に言われましたが案外普通でした。しかし、他のヨーロッパ諸国を旅して美味しいものを食べたときに、あ、イギリスがまずいのではなくて、周りの国のものが美味すぎるんだ、という発見がありました。こういうのは現地に赴かないとわからないことだと思います。他にも日本とのギャップが沢山あり、驚きつつもそれに慣れながら生活するのは楽しかったです。ちなみに10kgほど肥えて帰ってきたので食生活の違いって怖いなど痛感しました。

最後にもう1つ、ありがちですが自分自身の考え方の幅が広がりました。エディンバラ大学には様々な国から来た様々な年齢の学生がたくさんいます。私はサークルやイベント、SNS などを通して色んな友達を作りました。みんながみんなそれぞれ違う文化背景があって、話していて本当にタメになったし楽しかったです。自分は今まで自分の置かれている環境だけのニュースであったりを気にしていたけど、出会った友達はそれだけでなく世界レベルで物事を考えていて素晴らしいと思いました。それと同時に今までの自分が恥ずかしくなりました。自分が本当にやりたいことを、年齢や性別、損得を気にせず追いかけている人がたくさんいて、私もそんな風に強い意志をもって生きたいなど感化されました。

1番衝撃を受けたのは、エディンバラ大学のストライキです。先生達が自分たちの賃金や労働環境改善のためにストライキを起こすというのは日本では見ません。また、スコットランド独立のための運動もありました。そういう所で肌身で文化の違いというものを覚えることが出来ました。さらに、今まで日本だけで生活していると感じなかった少数派の不安感も初めてありました。コロナのこともあって差別されたりもありました。このようなことを経験して、日本に帰ってからは色んな目

線で物事を見て、よりいろんな人の立場になって物事を考えるようになりました。

このように語学力だけでなく人間的な面でも成長できた留学生活でした。自分の中の当たり前で生活していた今までとは違い、本当に広い視野でモノを考えるようになりました。でも逆に変わらないものもあって、突拍子もない自分の意見が案外他人に受けたり、そういうところが強みなのかかもしれないと気づくことのできる機会でもあったのかなと思います。留学はおすすめしかしません。海外で実際に生活して違う文化に触れるというのはみんなが経験していることではないので、これからそれをアドバンテージにして就活などに活かしていこうと思います。